

本態性舌咽神経痛に対するガンマナイフ治療 Gamma Knife surgery for glossopharyngeal neuralgia

四方 聖二¹、林 基弘³、REGIS JEAN²

¹さいたまガンマナイフセンター、²Timone大学病院 脳神経外科、³東京女子医科大学大学院医学研究科

難治性神経性疼痛として代表的な三叉神経痛の治療においてガンマナイフ（GKS）が有効な治療手段の一つであるとする報告は多いものの、舌咽神経痛（GPN）に対するGKSの効果については未だ一定の見解は得られていない。Timone大学病院でこれまで薬剤抵抗性GPN患者2名に対して3回のGKSが行われた。いずれの治療も照射ターゲットは一貫して舌咽神経脳槽遠位部とし4mmコリメーターを使用した。1例目の患者は83歳女性で発症から33ヶ月後に最大線量60Gyで治療を行った。GKS後2ヶ月間は薬物療法なしでの疼痛消失が得られたがその後再発した。このため6ヶ月後に2回目の治療を70Gyで行い、4ヶ月間は疼痛消失が得られたが後に再発し、最終的に経皮的外科治療を要した。2例目は49歳男性で発症から8ヶ月後に最大線量75Gyで治療を行い、12ヶ月間のフォロー期間中、完全に疼痛消失が得られ再発は見えていない。いずれの患者においても明らかな神経学的合併症の出現は見られなかった。GPNに対するGKSはある一定の有効性と安全性があると考えられるが、その至適ターゲット部位や至適線量については未だ不明であり、今後さらに症例を蓄積、検討していく必要がある。